

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 21 年 3 月 31 日

氏名： 山本 啓之

所属 (職名)： 独立行政法人海洋研究開発機構・主任研究員

会議名	第 13 回統合国際深海掘削計画 (IODP) 科学計画委員会 (SPC)
期間 (移動を含む)	平成 21 年 3 月 14 日 ~ 平成 21 年 3 月 21 日
用務地 (国・都市)	国名 米国 都市名 マイアミ
目的	SPC (Science Planning Committee)は科学助言組織(SAS)の上部組織として、IODP の掘削プロポーザルを審査し、科学計画を推進するため年 2 回の会議を開催して課題を審議する。
会議内容及び報告事項	
日本側委員：James J. Mori、徳永朋祥、山本啓之、岡田誠、富士原敏也、石井輝秋、高澤栄一	
1) SAS パネルより状況の報告を受け、内容について承認した。	
2) 2009 年以降の掘削船運航計画では、米国「JR」および日本の「ちきゅう」が現場復帰となり、欧州の「MSP」を加えて 3 船体制での掘削航海が実現した。	
3) 掘削提案 (28 件) を審査し、以下のように優先順位を決定した。	
636-Full3*	Louisville Seamounts
662-Full3*	South Pacific Gyre Microbiology
705-Full2	Santa Barbara Basin Climate Change
637-Full2	New England Shelf Hydrogeology
552-Full3*	Bengal Fan
716-Full2	Hawaiian Drowned Reefs
549-Full6	Northern Arabian Sea Monsoon
522-Full5	Superfast Spreading Crust
537A-Full5	Costa Rica Seismogenesis Project Phase A
618-Full3	East Asia Margin
(以上の 10 提案が OTF へ送られた)	
695-Full2	Izu-Bonin-Mariana Pre-Arc Crust
686-Full	Southern Alaska Margin 1: Climate-Tectonics
659-Full	Newfoundland Rifted Margin
661-Full2	Newfoundland Sediment Drifts
553-Full2	Cascadia Margin Hydrates
555-Full3	Cretan Margin
633-Full2	Costa Rica Mud Mounds
697-Full3	Izu-Bonin-Mariana Reararc Crust
567-Full4	South Pacific Paleogene
581-Full2	Late Pleistocene Coralgall Banks
589-Full3	Gulf of Mexico Overpressures
698-Full2	Izu-Bonin-Mariana Arc Middle Crust
703-Full	Costa Rica SeisCORK
669-Full3	Walvis Ridge Hotspot
535-Full6	Atlantis Bank Deep
584-Full2	TAG II Hydrothermal
556-Full4	Malvinas Confluence
612-Full3	Geodynamo
上位 10 提案が OTF に送られ、Tier-1 (*が付いた提案) は OTF に留め置き、それ以外の 7 提案は 2 年間だけ OTF に留め置くことで合意した。	

4) APL (2件) を審査し、実施を承認した。
734-APL Cascadia Accretionary Prism CORK
738-APL Nankai Trough Submarine Landslides

5) 掘削提案に対して「deactivation」処置が実施された。これにより、審査順位が下位のうちから 3 提案 (535-Full6、584-Full2、612-Full3) が SPC の審査リストから除外され提案者に差戻しにされた。規則として、この差戻しの処置は 3 回の審査において下位の順位に常在した掘削プロポーザルが対象になることが合意された。なお 2004 年以降のレスポンスがなく下位に常在してきたプロポーザル (547-Full4) については、直前に評価延期の要請が提案者よりあり、今回の審議から外された。

6) ライザー掘削での二次候補海域の選定案 (contingency plan) について審議した。CDEXの説明では、南海トラフ海域での黒潮流路の蛇行状況しだいでは掘削を中断しなければならず、掘削航海の効率化の必要性から二次候補を決めておきたい旨が示された。会議では、提示されたライザー掘削を主体にした4提案 (698、618、537B、595)の海域から、OTFに送られた618の南シナ海を第一候補として航海の可能性を調査することで合意された。次点の候補海域については次回の会議で審議するとされた。

7) その他
中国からライザー式掘削船の造船計画が公表された。

備考	
----	--

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

今回の会議では 7 名の委員のうち 5 名が代理出席という不測の事態が生じた。いずれの正規委員ともやんごとなき事由により欠席を余儀なくされ、また、代理委員の方々には 2・3 週間前に出席を依頼された方もいた。複雑な背景をもつ議題についても審議が求められる会議であり、代理となる方々にも事前に十分な情報を提供できるような組織的な対応が必要である。

今回の掘削プロポーザルの審査では、日本から提出されたプロポーザルの順位が予想したよりも下位に順位付けられ、また差戻しの処置を受けるなどの厳しい状況が出現した。プロポーザルの支援や強化に対応する取り組みが必要であると考えます。